

# がんばる東北

2011年  
3月25日  
NO.8

●発行責任者 吉泉秀男 〒999-7781 山形県東田川郡庄内町余目字猿田7-2 TEL 0234-43-2963

社民党現地対策本部

## 福島党首 政府に提言

3月22日の参議院予算委員会で福島党首が被災者救済、復興支援、原発事故で政府に建設的な提言を行いました。要旨は下記の通りです。

- ①不要不急な予算を削り、予算を大胆に組み替えよ。  
(法人税減税、高速道路無料化は廃止、子ども手当の上乗せ部分はカット)
- ②大学に合格した被災者に、入学を一年間猶予できるようにせよ。
- ③プルトニウム、ヨウ素、セシウム、クリプトン、キセノンなどの放射性物質の大気中飛散量を測定し公表せよ。
- ④原子力施設に関わるすべてのデータを公表せよ。
- ⑤30km圏内の屋内待避者をただちに圏外に待避させよ。
- ⑥原発推進政策から転換を図れ。



## 被災地への物資輸送は、民間業者とも連携を！

3月23日、中島隆利代議士が国土交通委員会で東日本大震災に関連して質問。政府の積極的対応を求めました。質問要旨は次の通りです

- ①被災地への物資輸送は、JR貨物、民間の宅配・トラック運送業者など業界団体の協力も求めるべきだ。
- ②計画停電による中小鉄道への影響を軽減するため、現行のグループ分けを見直せ。
- ③バス事業者（公共交通機関）には優先的に燃料供給を行え



## 農産物被害は東電と政府で全額補償を！

3月23日の衆議院農林水産委員会で、吉泉代議士が原発事故による農産物の放射能汚染等について質問しました。

- ①暫定規制値をクリアーしている農産物まで出荷制限する理由を明らかにすべきだ。
- ②暫定規制値を超えても安全だという根拠を示せ。
- ③飼料の備蓄状況を公表し畜産農家の不安を払拭せよ。
- ④食料150万食の確保と被災地への輸送等、具体的計画を明らかにせよ。
- ⑤被災した漁業者の漁業再建の間における就業支援策に万全を期せ。



# 赤ちゃんから悲鳴

23日東京都の水道水を供給している浄水場から乳幼児向けの基準値を上回る放射性物質が検出された。

山形では、東京にいる孫娘のためにミネラルウォーターを購入しようとした人から、「もう店頭にはない、買えなくなっている」と悲鳴にも似た連絡が入る。

原乳、ホウレンソウ等も放射線量の基準値を超えたとして出荷停止、自粛要請。生産者の怒りは頂点に達している。そもそも基準値とは何なのか。厚労省には、これまで放射線基準はなく、今回の事故で国の原子力安全委員会が原子力災害用に定めた「飲食物摂取制限に関する指標」を採用し、暫定的に基準値をつくったものである。

どこまで放射線物質が拡大していくのか不安が広がる。社民党議員は、政府は国民が理解できるよう説明すべきだとして、各委員会で追及している。なお、東京都は水道水の放射線量の基準値が下がったことを、24日13時前に発表した。



## ～現地を走る！～

## 岩手県連合から

3.11の地震と津波は一瞬にして多くの人の命と財産を奪い去りました。社民党岩手県連合も地震発生以降、津波に襲われた沿岸地区の党员や支援者の安否確認を進めてきましたが、津波に飲み込まれて亡くなった方の報告が届く一方で、未だに消息が不明な方もあり、被害の全容を把握するには更なる時間が必要となっています。



このような中で、社民党県連合の「宣伝車」も被害を受けた方の生活を支えるために、3月16日以降沿岸部の避難場所に盛岡から物資を運ぶ任務に着いてきました。

3月20日には、自治労青森県本部から届けられた支援物資と花巻市職労などから届いた、米や水・りんごジュースなどの食品等を積み込んで、田野畑村の避難場所に伊澤幹事長が運転して届けてきました。

田野畑村の避難所は、村の体育館や隣接した教育委員会の建物に約600人の被災者が身を寄せており、救援物資は届いているが灯油・ガソリンなどの燃料と下着類が不足していると要請を受けてきました。

物資を届けてからお会いした村長さんからは、「今回の災害は1つの自治体の力では立ち直ることが出来ない。国の支援の強化を社民党も強く働きかけて欲しい」と要望を受けました。